

んだすな

Ndasuna



項目ごとの3段階評価をしながらトイレを調査中の会員

小さな一歩から、その扉は開く

のしろまちづくりグループ ニューウェーブ(能代市)

平成18年12月15日発行

発行/秋田県生活環境文化部地域活動支援室

〒010 8570 秋田市山王四丁目1 2 TEL018 860 1520

編集/秋田県北NPO支援センター(北部市民活動サポートセンター)

〒017 0841 秋田県大館市字大町57 TEL0186 49 8553

<http://www.akita-kenmin.jp/north-support-center/>

E-mail angec1@io.ocn.ne.jp

2006 .DECEMBER

12

小さな一歩から、その扉は開く

のしろまちづくりグループ ニューウェーブ(能代市)

平成9年5月、私たちは小さな産声を上げました。県教育委員会主催の『男女共生社会』参加促進事業の受講修了者の有志男女19人は、心豊かなまちづくりをめざして活動をスタートしました。

「趣味のグループ」や「お手伝い型ボランティア」とはちょっと違って、「主役は市民です。市民参加のまちづくり」をめざし、「まずできることからその一歩を!」をモットーにしています。

身近な生活の問題について話し合い、学習を積み重ねながら、課題を整理し提言していくグループを指向しました。現状がこうだから、何のためにどのようなことを望むのかをまとめる重く厳しいボランティアの活動なので、継続が大変だということもありました。でも改善の喜びもあり、市民にも理解されて、市や県の委員会や審議会・協議会のメンバーとして参画できる力もついてきました。

そして今、10年の節目を迎えた私たちです。

これまでの歩み

10年間継続してきたテーマ

- (1) 「能代市公衆トイレ」35箇所の調査と、行政への提言 改善 清掃ボランティア
- (2) 市民への公開と公共心の啓発
中央公民館祭での展示発表
その他の公共施設での展示
会誌の発行

これまでの活動テーマ

住みよいまちにするために、自分たちで問題を見つけ、自分たちの手で少しでも状況を改善するために、行政と協働していけるテーマで取り組みました。

- 平成9年 ふるさとウォッチング
- 平成10年 風の松原に対する市民の意識を探る
- 平成11年 60歳以上の市民が望んでいること
- 平成12年 住みよい能代にするために
- 平成13年 港が明日を築くまちづくり
- 平成14年 ふれあいのあるまちづくりとは
- 平成15・16年 男女共同参画社会推進のために私たちにできること
- 平成17年 自主企画事業の実施、県や市主催事業への協力、講習・研修への参加
- 平成18年 三重県伊勢市のイベントボランティアの体験と調査研究の実施
能代ごみナビボランティア¹の実施

今後の活動

今年の活動の経験をもとに「能代市花火大会」でのイベント運営支援ボランティア実施を予定

私たちの喜びは自分たちの手で状況を少しでも変えていくことや、自分のパワーアップを実感できることです。そして何よりも継続が大きな力となることが体験を通して学習できたことです。「念ずれば花咲く」を胸にマイトイレ²の実践や車椅子トイレマップ作り、災害ボランティアのためのネットワークづくりなど、グループの特色を生かして、市民ニーズにあった活動を続けていきたいと思っています。 (会長/柴田 郁)

これまでの実績

平成12年度 国立女性教育会館(ヌエック)で「快適でやさしさのある生活と環境のまちをめざして」のテーマで、当グループの活動を発表し評価を得る。

平成14年度 (財)あしたの日本を創る協会発行の『まち・むら』に「主婦の感覚を活かしたまちづくり」で紹介される。

平成15年度 NHK TV「秋田この人」で活動が放送される。

平成17年度 秋田県男女共同参画社会づくり「ハーモニー賞」を受賞。

平成17年度 (社)あすの秋田を創る協会より「地域活動集団支援事業助成金」を受ける。

平成18年度 10周年を迎える。

「2006エコタウンフェスタ in 能代」ごみナビボランティア活動を実施

ボランティア・市民活動支援助成(調査研究事業)を受けて三重県伊勢市でイベントボランティアの体験と調査を実施

- 1 イベント会場で、来場者が排出するごみの分別・方法を案内し、環境に配慮したイベント運営を支援するボランティアのこと。
- 2 自分で担当する公衆トイレを1人で2～4箇所を決め、年間を通して責任を持って管理し、清掃ボランティアをするトイレのこと。

のしるまちづくりグループ

ニューウェーブ

会長/柴田 郁 会員/11名 設立/平成9年
連絡先 TEL./FAX. 0185 - 52 - 6474



能代市環境課職員の説明を受けながら「風の松原」での研修



国立女性会館(ヌエック)での発表



「港が明日を築くまちづくり」の現地研修



知事よりハーモニー賞を授与。喜びの会員

イベント情報

能代市 1/16(火) 2/20(火)

うつ家族教室開催

うつ病または「うつ」についてご心配や悩みを抱えている方のご家族の方へ。ご本人へどう接したら良いかなど、お悩みをおもちでないでしょうか。同じ悩みを持つ方たちと、病気のことや日頃抱えていることなど語り合ってみませんか?今年も、うつ家族教室を開催します。どうぞお気軽にお問い合わせください。

日時:平成19年1月16日(火) 2月20日(火)

いずれも13:30~15:00

会場:山本地域振興局福祉環境部(能代保健所)

2階会議室

対象者:うつ病や「うつ」について悩んだり心配している人が身近にいる家族など

参加費:無料(事前に申し込みが必要です)

問 山本地域振興局福祉環境部(能代保健所)

企画福祉課 児童・障害者班「うつ家族教室担当」

0185 55 8020 FAX 0185 53 4114

秋田市 1/10(水) 2/7(水)

くらしの教室

①快適・安心ライフのための介護用品情報

日時:平成19年1月10日(水) 10:00~12:00

講師:伊藤 かずみ 氏

(秋田県長寿社会振興財団(L.L財団)研修相談課長)

②賢く選ぼう“健康づくりのための食品の表示”

日時:平成19年2月7日(水) 10:00~12:00

講師:栗盛 寿美子 氏

(由利地域振興局福祉環境部 副主幹)

会場:秋田県生活センター「くらしの実習室」(アトリオン7階)

定員:各40人(定員になり次第締切)

問 申し込み:秋田県生活センター

018 836 7806 FAX 018 836 7808

鹿角市 12/1(金)~1/31(水)

三浦清志 きり絵作品展

日時:平成18年12月1日(金)

~平成19年1月31日(水) 10:00~16:00

会場:関善賑わい屋敷(鹿角市花輪字上花輪85)

問 主催:NPO関善賑わい屋敷 0186 23 7799

入場の際は、明治期の伝統的商家の建物を次世代に受け継ぐための協力金300円をお願いしています。

「れもんの会」結成10周年記念 サロンコンサート開催

去る10月29日、精神保健福祉ボランティア「れもんの会」の結成10周年を記念して、サロンコンサートを開きました。

“サロン”とつけたのは、私たちが北秋田市交流センターで金曜日に開いているサロン「あんず」の雰囲気と場所で、手話をつけた歌、フラダンス、朗読、オカリナ、ギター、ドラムサークルを楽しんでいたきたいという願いからです。



会員や家族、地域の方が集まってくださいました



コールつくしんぼの手話を交えたコーラスを行いました

出演者の方々は、みんなボランティアということで協力をかけててくださいました。舞台の高さを無くし、みんな同じ目線で心をひとつにするということで来賓の席も設けず、皆平等の精神で2時間を楽しみ「みんな同じ人間、仲間だよ、「ひとりじゃないよ」と話し合いました。お昼は、希望する方たちとお弁当を食べ交流しました。また、多くの方々が差入れをして下さり、テーブルには沢山のご馳走が並び、130人を超える方たちでサロンは熱気にあふれ、とても幸せな時間を過しました。

問 精神保健福祉ボランティア「れもんの会」

代表/小坂和子 /FAX 0186 62 2625

地域を元気に
したいと活躍
している人や
団体紹介！

元気なふるさと秋田づくり

秋田県は、今年度から、県民目標「元気なふるさと秋田づくり」の実現に向けて、地域や県民が自主的・主体的に取り組む「県民運動」を展開します。このコーナーでは元気な秋田をつくっていかうと活動している個人や団体、企業をご紹介します。

県民運動



秋田弁と昔っこフェスティバルでは高校生が民話の読み聞かせを披露

写真提供/大館新報社(上) 北鹿新聞社(下)

秋田弁と昔っこを楽しむ会

会員数50名で毎月1回例会を開き活動を続けている。

内容としては昔っこの口演と読み聞かせ・秋田弁についての多様な学習・わらべ唄と伝承遊びなど広範囲にわたっている。

楽しみながら高度に専門的な知識を身につけて行くと同時に秋田の民俗的な温もりのある標題を後世の若い世代に伝承して行きたいという目標を掲げ学習している。

年代も中・高生から80代と多岐にわたっている。

そして年1回まとめとして秋田弁と昔っこフェスティバルを開き会員の研究を発表し研さんを続けている。

秋田弁と昔っこ・わらべ唄の中に含まれている尊敬語や古語・子供たちの情操教育に役立つ秋田の言葉をこれからも発掘し保存・伝承していきたいと考えている。そして伝統ある文化遺産を後世に語り伝えて生きたいものである。(会長/河田 竹治)

☎ 0186 42 4245

昔っことは民話のこと。

フレンドシップ・コンサート・かづの

青垣めぐる鹿角の郷にも「ウィーンの調べ」というごく単純な発想が原点で、年1度康楽館にウィーンフィルハーモニーのメンバーを招いている。地域の方に低料金で気軽に楽しんでほしいと運営はすべて老若男女のボランティアで行っている。

自分たちが「団塊の世代」であることや戦後、日本の高度成長・復興期に集団就職等、多くの級友が全国へ離散したことを残念だったと思い、しかし、相も変わらずほとんどの若者は、高校卒業と同時に赤銅色や青垣のふる里を後にする現実に...無念さを感じる。

自分を取り戻し、ふる里を後にした若者たちの顔を思い起こし、ちょっとだけ気がついたのだ。

「何を郷土に残せるのか」との問いかけに、一生懸命に働きはしたものの、家庭や地域に還元する作業は、一体どこに行ってしまったのか?時代の流れや趨勢に何ら疑問の余地なく、使い捨て思考に浸っている自分はいなかったか?

現代教育に視られるように、誠心誠意、追い求めた生活の先に、空しさや喩えようもない荒廃した「心」の抜け殻だけが残る現実だけは何とかしたい。

都会に行くとは何でも手に入る。が、「此处」でしか手に入らない「もの」もある。

願いは、やがて、少数精鋭の地元後輩たちが地域文化づくりを始めるとき、一助となるに足るグローバルな「フレンドシップ・コンサート」があっていいだろう。やがて、企業戦士として一生懸命に活躍した、我々世代の友人たちも訪れるであろう。故郷に、世界一流の調べは、在ってしかなるべきと思う。(事務局長/清水 浩)

☎ /FAX 0186 29 3306

11月に行った「ウィーン・アルカディア・デュオ」



陽気な母さんの店友の会 「地域に根ざした直売活動」

魅力ある農業・農村社会を創造するため、女性農業者がどのように係わっていけるのかを模索するなか、平成9年に秋田県の事業で生活者の視点を持つ女性の感性を活かしたむらづくり活動を行いました。その際、私たちの強く望んだことが女性農業者の拠点施設である常設直売所設置でした。そのために、試行錯誤のうえ、自主自立の直売所を平成13年4月29日にオープンすることができました。

運営するにあたり次の4つの基本方針を掲げました。

- ①消費者ニーズの追求
- ②高付加価値の追求
- ③地域食文化の発信
- ④地域との連携

消費者と生産農家が直接ふれあい、距離を縮めることが農産物の安全安心を生む近道であり信用を得ることにつながると感じています。

体験交流型直売所活動も5年を経過しました。これからは農家の女性の視点を活かした中心市街地活性化や地域の活性化に関わっていきたいです。

(会長/田山 雪江) ☎ 0186 52 3800

北秋田地域グリーンツーリズム推進事業のモニターツアーで参加者に伝統・農業・食事を体験してもらいました(右)大館市大町でふれあい広場を開催。現在は旧正札竹村百貨店内で行っています(下)



マタギスタッフ

旧阿仁町の豪雪地帯として知られる中村地区の青年会は、若者の都会への流出などによって会が自然解散したが、数年を経過した平成5年頃より一部の若者がマタギの里で有名な打当温泉を核にしたイベントを立ち上げ、温泉はもとより地域振興を目指し、平成6年4月に「マタギスタッフ」を立ち上げた。

当初は、打当温泉への泊り客に対して地域の郷土芸能等の提供や温泉イベントの企画および安ノ滝への誘客を図るため、地域資源を活用したものを中心に活動した。特に3月末の残雪を利用した打当温泉スキー大会(小学校3年生以下)は開催ごとに参加者が増えてきたが、施設の老朽化によりアルペン競技は中止せざるを得なくなり、今ではクロスカントリー競技のみの大会になったが、今年も13回目を盛況に終了した。

それまで地域資源を利用しながらの活動を行ってきたが、数年前より、地域を守りながら活性化を図ろうと、内陸線の沿線の環境美化作業(地域沿線約7キロメートルの除草作業)を地域住民に呼びかけながら始め、50名を越す賛同者を得て、本年4回目を無事に終了した。こうしたボランティア運動が当会のみならず、沿線地域全体に拡大することを願っている。

(代表/柴田 明弘)

☎ 事務局/湯沢 栄治 0186 82 2111(職場)

打当温泉スキー大会(右)と内陸線沿線草刈作業(下)は地域の方の多大なご協力で行われている



元気な秋田ふるさとづくりサイト

<http://www.akita-kenmin.jp/kmud/index.2.asp>

元気なふるさと秋田づくり県民運動に関するお問い合わせ

県地域活動支援室 018 860 1520

北部市民活動サポートセンター 0186 49 8553

冬の訪れとともに心配されるのは積雪です。昨年の豪雪では各地でさまざまな対応が見られました。そこで、秋田県社会福祉協議会での取り組みと今後の課題についてご紹介いたします。



社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
秋田県ボランティアセンター
秋田市旭北栄町1 5
018 864 2799(担当者:笈川)

社会福祉協議会による

除雪ボランティア活動について

今年1月の平成18年豪雪による被害を受け、秋田県社会福祉協議会では「秋田県災害ボランティア支援センター」を設置し、県内でも特に被害が大きかった秋田市、高齢化率が高く除雪の担い手不足が深刻だった北秋田市(阿仁地区)、藤里町への除雪ボランティアの派遣を実施し、三市町で計296人のボランティアが除雪活動に参加しました。

このような雪害発生時以外にも、県内各市町村の社会福祉協

議会(以下、社福協)の約7割がそれぞれの地域で冬期間における高齢者、障害者などの要援護世帯への除雪活動支援に取り組んでいます。県北地域においては、大館市、鹿角市の社福協が地元企業の協力を得て、数百名の規模で除雪ボランティアを組織し、要援護者への除雪活動を展開していることが知られています。

これら社福協による除雪活動は、民生委員や近隣住民による平時時の要援護世帯の見守りネットワーク活動の延長線上にあるものであり、その中で社福協が除雪の必要な要援護世帯の要望をしっかりと把握し、地域住民や企業、学校などに除雪活動への参加を呼びかけることで初めて可能となるものです。

一方で、除雪活動の課題として、地域で除雪に参加する人材の確保が困難である点が挙げられています。特に、平成18年豪雪のように降雪が一時期に集中した場合、除雪の担い手不足が深刻となり、緊急に除雪が必要

な要援護世帯全てに迅速に対応することができなかつたという声も聞かれました。他にも、地域の除雪活動を行う機関の連携がとれていない、除雪ボランティアの対象となる世帯の判断基準が難しいなどの課題も出されています。

これらの課題を踏まえ、秋田県社会福祉協議会としては県内の除雪ボランティア活動が円滑に実施されるよう、活動のための体制づくりを進めていきます。

除雪ボランティア活動への参加にあたっては、ある程度雪への知識、経験などが必要であり、また、相応の体力も要求されます。現在は事故防止の観点から、一般的にボランティアによる屋根の雪下ろしが実施されることは少ないようですが、屋外での作業であることから、ある程度危険を伴う活動であることも事実です。皆さんが除雪ボランティア活動に参加する際は、防寒具や帽子など除雪作業に適した服装で参加いただくとともに、決して一

人で無理な活動をせず、複数で作業にあたってください。また、除雪の対象となる住宅周辺の排雪場所の確認や、車輛などによる雪の運搬作業などにも十分な注意が必要となります。

少子高齢化が進行する本県にあつては、今後、住民の支えあい活動を一層進めていくことで、それぞれの地域の力を高めていくことが必要となります。どうか、それぞれの地域の社福協やボランティア団体・NPOが実施している除雪ボランティア活動へ積極的に参加いただきますようお願い申し上げます。



北秋田市(阿仁地区)での除雪活動(右上)
藤里町での除雪活動前のミーティング(上)

第3回「田舎」懸賞論文募集

「田舎」について自由に論じてください。「田舎」をテーマにするのであれば、何でも構いません。幅広く募集します。「田舎」について独自に課題設定をした上で、論文にまとめてください。

助成対象:18才～30才まで。但し大学生・大学院生・専門学校生は年令を問いません。(4000字程度。A4のサイズの使用紙を使用してください。)

賞金:【最優秀賞1人】ほか

応募締切:平成19年1月20日(土)

☎ NPO 共育学舎 「田舎」懸賞論文係
0735 47 2160

「平成19年版環境白書」表紙絵の募集

環境省では、環境白書の表紙絵を描くことを通じて環境保全についての意識啓発を図るため、「環境白書表紙絵コンクール」を今年も開催することとしました。

絵のテーマ:「環境にやさしい社会」 作品中に文字は入れないで下さい。

表彰:小・中学生の部・一般の部【最優秀賞 1点】ほか

応募締切:平成19年1月31日(水)

☎ 環境省総合環境政策局環境計画課
03 3581 3351(代表)・03 5521 8328(直通)
<http://www.env.go.jp/guide/kobo.html>

我が家の環境大臣事業 我が家の「eco宣言」

エコスローガンとミニレポート大募集

我が家でいつもやっているちょっとしたエコな取り組み、目からウロコな斬新なエコライフアイデアなど、日本全国にみんなのエコライフをスローガンにして広めよう!

募集内容:【ファミリー部門】家庭での活動内容【団体部門】団体としての活動内容

表彰:金賞、銀賞、銅賞:各部門各賞1点

応募締切:平成19年2月11日(日)

☎ 財団法人 日本環境協会 我が家の環境大臣全国事務局

03 5114 1251 FAX 03 5114 1250

http://www.eco_family.jp/content/info/002.html

第15回 環境作文コンクール募集

人間にとって地球はかけがえのない存在です。だからこそ、温暖化・砂漠化などの大きなテーマとともに、身近に潜む

助成金情報

平成19年度 SSF スポーツエイド助成

SSFスポーツエイドは、定期的にスポーツに親しむ人が増えることにつながるスポーツ事業に対する資金援助制度です。

助成対象:任意団体で規約・会則があり、団体としての取り決めや経理処理ができるスポーツ団体・社団・財団またはNPOの法人格を持つスポーツ団体。

助成額:【大会・教室・講習会・スポーツキャンプ】全国または都道府県規模の団体100万円(補助率50%以内)市町村規模の団体・地域規模の団体50万円(補助率50%以内)【国際交流】100万円(補助率50%以内)【スポーツプログラム】200万円(補助率80%以内)

応募締切:平成19年1月15日(月)

☎ 笹川スポーツ財団 業務部 スポーツエイドチーム

03 3580 5854 FAX 03 3580 5968

http://www.ssf.or.jp/index_ssf.html

第15回「住まいとコミュニティづくり活動助成事業」公募

市民主体の住まいとコミュニティづくりを支援する事業で「一般助成」「特別助成」の2つに分けて実施。

助成額:1件あたり上限100万円

応募締切:平成19年1月31日(水)必着)

☎ 財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団(助成係) 03 3586 4869 FAX 03 3586 3823

<http://www.hc-zaidan.or.jp/>

セブン・イレブンみどりの基金 2007年度(平成19年度)公募助成

市民主体の地域社会の実現を目指し、セブン・イレブン店頭募金箱に寄せられた市民からの募金をもとに、地域の環境問題を地域の市民が主体的に解決していく活動に支援されるものです。

助成対象:あたらしい社会の担い手としての環境NPOを支援する「環境市民活動助成(4種)」、ごみのない花と緑の街並みをつくる活動を支援する「地域美化活動助成(2

小さな問題についても今一度考えてみる必要があります。当協会では本コンクールを通し、環境保全の大切さや自然の尊さを子どもの視点でとらえ文章化することによりその感性の豊かさを育むことを目的としています。

テーマ:「わたしの愛する地球のために」

応募資格: 小学校4年生から高校3年生

応募締切: 平成19年1月31日(水)必着

問 財団法人 科学技術教育協会

03 5367 9511 FAX 03 3357 2727

http://www.fest.or.jp/PRIZE/sakubun_15.html

ＪＲ花輪線イメージソング募集

募集内容: 花輪線イメージソング(曲・歌詞付き)1曲3・4分程度で未発表の作品に限り、原則的に日本語とします。

テーマは自由とします。(花輪線沿線の豊かな自然を舞台に、鉄道への思い入れなどを盛り込んだ誰もが親しみを持てるような曲を期待しています。)

応募資格: どなたでも応募可能

賞: 【最優秀賞1点】旅行券10万円分ほか

応募締切: 平成19年2月14日(水)

問 ｾﾞｯﾌﾟ 東日本花輪線整備・利用促進期成同盟会事務局

「ＪＲ花輪線イメージソング募集係」

0186 30 0248 FAX 0186 30 1515

チャレンジデー2007 実施自治体・地域募集

この日は、人口規模がほぼ同じ自治体同士が、午前0時から午後9時までの間に、15分間以上継続して何らかの運動やスポーツをした住民の『参加率(%)』を競い合います。国内では14回目の開催となった「チャレンジデー2006」では、北は北海道から南は沖縄県に至る全国93カ所(17市28町7村41地域)が実施し、約95万人もの人達が参加しました。年齢や性別を問わず誰もが気軽に参加でき、「住民の健康づくり」や「自治体の活性化」のきっかけづくりには最適なスポーツイベントです。

実施日: 平成19年5月30日(水)

募集対象: 市区町村及び地域(自治会・学校区・行政区)

募集数: 100市区町村・地域

応募締切: 平成19年2月中旬

問 笹川スポーツ財団「SSFチャレンジデーコミッティー」

03 3580 5854 FAX 03 3580 5968

<http://www.ssf.or.jp/>

種)」でいずれも日本国内の団体および活動。

助成額: 《環境市民活動助成》【活動助成】1団体あたり上限特になし、総額7,000万円【NPO法人格取得助成4団体】1団体あたり上限50万円【モデル事業助成1団体】1団体あたり上限200万円【自立事業助成1団体】1団体あたり上限360万円《地域美化活動助成》【植花活動助成】総額1,000万円内【地域清掃活動助成50団体】上限20万円

応募締切: 平成19年1月31日(水)

問 セブン - イレブンみどりの基金助成担当

03 6238 3872 FAX 03 3261 2513

<http://www.7midori.org/>

第8回 社会貢献基金助成

日本の生活文化と地域社会の発展に寄与することを目的とし、研究助成事業、高齢者福祉事業、障害者福祉事業、児童福祉事業、環境・文化財保全事業、国際協力・交流事業などに助成が行われます。

助成対象: いくつかの要件を満たした非営利組織(財団法人、社団法人、社会福祉法人、NPO法人、その他任意団体、市民ボランティアグループ)、大学、研究機関(個人も可)で、助成対象事業の趣旨に合致する事業を行おうとし

ている団体等

助成額: 総額10,000千円(1件当たりの助成額上限は2,000千円)

応募締切: 平成19年2月末日(必着)

問 社団法人全日本冠婚葬祭互助協会

社会貢献基金 運営事務局

03 3433 4415 FAX 03 3435 0880

平成19年度(第6回)環境NPO助成」

「環境と経済との調和」及び「環境と科学技術との調和」に資することを目的としたNPO法人、または3年以上の実践活動歴を有する任意団体などに対して助成されるものです。

助成額: 1件当り150万円を限度とし、数件の団体を選定し助成

平成19年1月26日(金)

問 (財)日立環境財団

03 3257 0851 FAX 03 3257 0854

<http://www.hitachi-zaidan.org/kankyo/topics/topics23.html>

ボランティア・NPOのよもやま話

NPOに関わる3人の会話を通して、疑問や質問にお答えします。

登場人物
 ハジメ (ボランティア活動未経験)
 エヌコ (NPO 法人勤務 2年)
 リジオ (NPO 法人理事)

「NPOと行政の協働とは」

11月に秋田市、大館市で行われた「NPOと行政の協働推進セミナー」についてのお話です。

ハジメ 遊学舎でのセミナーはどうでしたか？

エヌコ 事例発表で紹介された「NPO法人 不忘アザレア」の活動を聞いて深く共感しました。

リジオ 知ってるよ。宮城県白石市にあるスキー場で、会社は経営破たんしたが、地元市民が中心となったNPO法人と市で協働しているんだ。

エヌコ 法人を立ち上げる際には市役所と市民の共同勉強会を行い、趣旨を理解して自発的に会員になってくださる市民が多いこと、市役所職員も一市民として会員になりいろいろと助けてくださるそうです。また、多くの地元利用者のニーズに合わせた運営に取り組んでいて、細かいことでも丁寧に対応していこうとする想いが伝わってきました。

リジオ そうだな。利用者にアンケートを取ってすべての職員やパートが確認して身を正す。また、レストランのメニューを見直す。サービス業では当たり前のことのようにだが、地域の人である職員やパートが、地域を人の立場に足って考えていることで、多くの人の理解と協力が得られているのかな。詳しい内容がホームページ 1に紹介されているよ。

エヌコ 事例発表後の意見交換「NPOと行政の協働をすすめるために」では、市民活動団体と行政職員が協働について意見を自由に書き出しあいました。ファシリテーターの吉田信一郎さんは①お互いが自立すること②情報を共有すること③お互いによく話し合うことなどが大切と締めくくってくださいました。

ハジメ 大館市では「植樹祭を成功させるには」をキーワードにしたNPOと行政の協働のワークショップでしたが、自分が考えてもいなかった意見を聞いたり、お互いに話し合えることにうれしくなりました。もっと回を重ねてほしいな。

リジオ そうだな。もっと必要だよな。

エヌコ わたしは、講師の森良さんが「問題を意識することが大切で、意識した時点で問題の半分は解決する。意識して知恵を出し合うことで解決する可能性は高くなる」とお話されたのが印象に残ってます。また、興味深い本の紹介もありましたよ。

リジオ 僕は持っているんだよ。『ハチドリのひとつく〜いま、私にできること〜』4という南米アンデス地方のお話とともに、各界の人の「いま、私にできること」などがまとめられている。辻信一さんという文化人類学者、環境運動家が監修しているよ。

エヌコ 秋田市でも行っている「100万人のキャンドルナイト」の呼びかけ人代表でもあるんですね。よんでみよう！

1 平成16年度国民生活白書 <第1章> 地域で起こっている注目される活動事例をご覧ください。

http://www.5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h16/01_honpen/hm42100.html

みやぎ蔵王白石スキー場 <http://www.nposki.com>

2 ラーンズケイブ代表

3 NPO法人エコ・コミュニケーションセンター代表

4 株式会社 光文社 (ISBN 4-334-97491-0 Printed in Japan)

登録して情報発信しませんか！

秋田県市民活動情報ネット

<http://www.akita-kenmin.jp/npo/index2.asp>

秋田県のボランティアや市民活動に関する情報や話題が満載。登録していただくと団体のプロフィールや目的、事業などを紹介できます。

<編集後記> 住みやすい暮らしやすいまちづくりのために活動しているさまざまな方に出会って、まちづくりは他人事ではすまされないと思ふようになりました。私も自分ができることから取り組んでみたいと思います。

北部市民活動サポートセンターは秋田県から委託を受けて、特定非営利活動法人秋田県北NPO支援センターが運営しています。

北部市民活動サポートセンター(北部男女共同参画センター内)

情報をお待ちしています

県北のボランティア・NPO活動の情報をどんどん紹介します。電話やファックス、メールで情報をお寄せください。活動の輪を広げましょう。

また、北部男女共同参画センターでは、貸室(研修室・グループ活動室)、本・ビデオの貸出、交流サロン、ロッカー、印刷機・コピー機の利用ができます。

〒017 0841

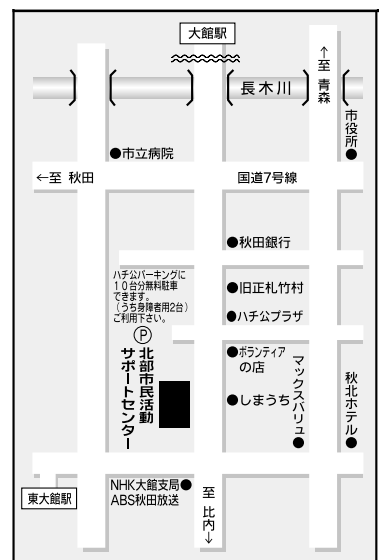
秋田県大館市字大町57

TEL 0186 49 8553

FAX 0186 49 8589

http://www.akita-kenmin.jp/north_support_center/

E-mail anec1@io.ocn.ne.jp



この印刷物は1,500部作成し、印刷経費は1部当たり30.6円です。